



※一般質問の内容は議員自身が6月定例会議事録に基づき記述しています。
QRコードを読み取り、令和2年6月定例会を選択すると一般質問が視聴できます。



わかばやし しづこ
若林 志津子 議員
(日本共産党議員団)

学校での新型コロナウイルス対策について

問 休業期間中の学校一時預かりについて、保護者、教員の要望と意見は。

教育長 保護者からは、家庭での過ごし方や勉強の仕方等の問い合わせが多かった。学校からは、いかに密を避けるか、どのように消毒を行うかで困ったと聞いている。

問 学校給食の納入業者、調理員、配送員などへの対応は。

部長 3月分の発注済み食材はキャンセルし、できない物は学校給食センターで購入し支払い済み。長期保存できる物は6月以降給食で使用。主食は国の補助を活用する。調理員、配送員は従業員確保のため委託料の減額はしなかった。

意見 納入業者に聞き取りを行い、第2波、第3波に向け対策が取りやすいようにすべき。



さの あつし
佐野 孜 議員
(富岳会)

市発展の原動力を生み出す北部地域の活性化

問 ①自然林、人工林、湧水、河川の保全。
②畜産堆肥生産農家と有機栽培農家の連携。
③農家の担い手育成支援制度と対策。計画中のバイオマス発電施設の進捗状況。 ④富士登山中止と世界遺産等の見学方法の検討やこれから推奨する観光事業は。

部長 ①民有林1万8398haの内、天然林4245ha、人工林1万4153haで所有者が高齢化し、間伐や風倒木は未処理。森林整備補助事業を活用して作業道を整備し、負担を軽減した森林整備を計画。広葉樹との複合状態に誘導する。湧水と河川は、水質の保全や水生生物・植物の再生力と清掃や排水対策を検討中。 ②畜産堆肥の生産(家畜糞尿処理)は環境の保全とのバランス上、重要な課題。県の関連部署、各農協と連携。有機

ネット学習、オンライン学習の導入を

問 休業期間中にネット学習やオンライン学習を行った学校もあった。今後の導入予定は。

教育長 現時点では各家庭でのICT機器の整備が整っていないため、各家庭と学校間の実施は難しいが、ビデオ会議ソフトで学校と外部講師をつなぐことや校内の機器を活用してのオンライン授業などは検討が可能。

20人学級を子どもたちにプレゼントしよう

問 新型コロナウイルス感染症対策として日本教育学会は教員を増やす必要予算の提言を国に提出した。また、全国知事会・全国市長会・全国町村会は、少人数学級の実現を求める緊急提言を国に提出した。日本共産党の「1クラスの人数を20人に」との提言への見解は。

教育長 1クラスを20人にすれば教員が子ども1人に関わる時間が確保され、実態に応じた細やかな指導が可能。しかし、施設面や教員確保が課題。未来を生き抜く子どもたちを育成する学級人数、教員等の環境を整えることは重要。

農家認定し、畜産堆肥利用促進補助金を交付。
③農業の担い手育成機関は、磐田市の県立農林環境専門職大学と富岳館高校で専門的授業。研究機関は猪之頭の県畜産技術研究所を活用。バイオマス発電施設は業者と調整中。 ④世界遺産関連の案内所は全て開所し富士登山の理想形を検討。E-BIKEで地域活性化の検証。

市長 地下水と家畜糞尿の処理は未来永劫の一大事業と捉え、官民で知恵を出し解決予定。

防疫対策が施された教育環境下での教育方針

問 ①諸課題を考慮した授業日数確保の理念。
②教育委員会の学校訪問の視点。 ③給食に対する配慮事項。

教育長 ①205日の予定が4、5月の休業で31日が不足。夏期休業は9日間。休業要請への対応と学校行事が実施可能な195日を確保。 ②教育委員会主催の学校訪問は中止。 ③校内の給食は、防疫対策をした上で工夫をして楽しく。

部長 給食センター従事者は常に厳しく健康管理を行い業務従事。確実に安全な給食を提供。